

# JAF AE Newsletter

No. 14 (January 2004)



## 第 14 回 全国大会、中京大学にて開催

日時: 2003年12月6日(土)  
10:00 ~ 18:30

### プ ロ グ ラ ム

大会総合司会: 津田早苗(東海学園大学)  
10:00 開会の辞: 吉川寛(中京大学)  
境賛三(中京大学国際英語学部長)  
会長挨拶: 本名信行(青山学院大学)

10:10 - 11:40 特別講演: Larry Smith  
"Exploring New Dimensions in Asian Englishes"

11:40 - 12:00 会員総会  
12:00 - 13:30 昼食休憩

- 13:30 - 16:00 研究発表  
司会: 橋内武(桃山学院大学)
1. "Does receptive English teaching motivate learners' attitudes towards international communication?: Ideologies in governmental curriculum guidelines"  
SHIBATA Ayako  
(Goldsmiths College, University of London)
  2. "Japanese university students' beliefs about English pronunciation: as a starting point to raise their awareness of English as an international language"  
ODA Setsuko  
(International University of Health and Welfare)
  3. "Raising University Students' Awareness of Varieties in English: Learning by Teaching"  
Alan THOMPSON  
(Nagoya University of Commerce)
  4. "A Survey of Artificially Simplified Englishes: Implications for English as an International Language"  
Judy YONEOKA  
(Kumamoto Gakuen University)
  5. "Unveiling the Chineseness in College English Textbooks in China"  
Jie SHI  
(University of Electro-Communications)  
FUJII Takeshi  
(Jikei Medical University)

16:00 - 16:15 休憩  
16:15 - 17:45 シンポジウム

テーマ: 「アジア英語と日本の貢献」  
司会: 田嶋ティナ宏子(白百合女子大学)  
発題者: 本名信行(青山学院大学)  
竹下裕子(東洋英和女学院大学)  
相川真佐夫(和歌山信愛女子短期大学)  
榎木蘭鉄也(秋田県立大学)

閉会の辞: 矢野安剛(早稲田大学)

18:30 懇親会

## 第 14 回大会を振り返って

矢野安剛(早稲田大学)

第 14 回大会はラリー・スミス氏、ブラジ・カチュル御夫妻という豪華なゲストを迎えての大会であり、いつもは若い方の発表を聞く会長、理事自らがシンポジウムに参加し、学ぶことが多かった。全プログラムが英語で行われたことも、「アジア英語」を広める意味で、また日本語に堪能でない外国人の参加をうながし、会員の国際化を進める意味でよしとしたい。

ラリー・スミス氏の特別講演については、まず、アジア諸国の英語教育関係学会の連携をうながしたが、これは本名会長ヘイニシアティブをとれというメッセージと受け取れた。つぎに、アジアにおける英語の覇権を憂えていたが、英語を地域化し、内在化し、内基準を持ちはじめたアジアの ESL 諸国では案ずる必要はないのではないか。EFL 地域である我々も「英米人の言葉を学び、使う」という発想を「国際語としての英語を学び、使う」へ切り替えれば、脅威を感じることもないのではないか。また、英語はアジア英語として教えるべきということであったが、内基準が確立しすぎて国際的相互理解度が低くなっている現状を考えるといちがいにならずにないものがある。最後に、スタンダードの問題が語られたが、基本的に複数のモデルが必要であろう。私はどの種の英語でもいい、高等教育を受けた人が話し、書き、他のどの種の英語話者でも教育ある人なら理解できる英語と考えているが、その言語学的コード化は完成していない。

研究発表は 5 つあり、いずれも意欲的で、知的な

刺激を与えてくれたが、事例研究の面白さが目立って、事象の背後の理論的構築がはっきりと表現されていない嫌いがあった。その中で、ジュディー米岡氏の発表は、用語の定義、先行研究の批判的紹介、現状分析、問題点の抽出、解決法の提示（この部分は今後の研究の進展に待つ部分が多かったが）と構成がしっかりしていて良い発表だった。

最後のシンポジウムは Mr. Asian Englishes の本名会長はじめ、知的に楽しいセッションであった。「アジア語としての英語」の提案は過激で刺激的であり、多様性を内包しながら共通性を増やしていき、いずれ「アジア英語」というものが構築されるという希望を抱かせる。竹下理事の発題は文科省が進める「英語が使える日本人の育成」プランを中心に日本における英語教育・学習の問題を扱ったが、非常にインフォーマティブであった。相川理事は台湾と日本における英語教育の問題を紹介し、榎木蘭理事はユーモアたっぷりに三省堂の『アジア英語辞典』を紹介した。パネリスト同士はもとより、パネリストとフロアとのインタラクションの時間が不十分だったのはシンポジウムとしては失敗であった。これは田嶋事務局長の司会の不手際ではなく、プログラム自体に無理があったからである。シンポジウムをシンポジウムたらしめるためには、時間とパネリスト数のバランスを考えるべきであろう。

学問的深さや研究の完成度にいささか物足りなさが残ったが、「アジア英語」という若い研究分野で、研究に意欲的に取り組んでいる熱意が感じられ、全体的に見て、好感のもてる大会であった。「アジア英語」研究者を育てたいという本名会長の意図は着実に実りつつある。全体的にみて、いい大会であった。

## 特別講演 Review

吉川寛（中京大学）

スミス氏は、「New Dimensions」と題して、アジア英語に関する様々な新しい見解を提示した。先ず、現在アジアにおいてアジア英語に関する学会組織が存在するのは本学会 JAF AE のある日本だけであるが、インド、中国、シンガポール、フィリピンなど他のアジアの国や地域もそのような学会組織を設立すべきだと主張し、IAWE も含め互いに連携してアジア英語の研究と啓蒙に対応すべきであると提唱する。これまでにない積極的な新提案であり、実現に期待したい。次に、アジアにおける英語のヘゲモニーに言及し、英語のグローバル化、国際化とは、特定の英語変種の普及ではなく、それぞれの国や地域に生まれた多様な英語変種の共存であると主張した。これは氏自身の持論をベースにしたものと言える。そして、それら多様な英語変種はカチュル氏の言うところの 3 つのサークルに分類されるが、そのサーク

ルの枠は固定されているのではなく、それぞれの国や地域の言語政策や言語事情によって別のサークルに移行することの可能性に言及した。マレーシアにおける民族言語の重視や日本で英語第二公用語論を例に挙げ、outer circle から expanding circle への移行、あるいはその逆の移行が起こりうることを指摘した。この指摘はサークルを動的に捕らえるもので大変興味深い。

氏は続いてアジア英語と教育に関連した見解をいくつか提示した。先ず、英語教員の養成に触れ、英米の英語だけでなく多くのアジアの英語変種にも目を向け、すべての英語変種を相対化する視点を有する英語教師の育成が求められるとスミス氏は主張する。更に教材にも言及し、様々なアジアの英語変種やそれぞれの文化に触れることを可能にする教材開発の必要性があると述べた。また、教授法に関しては、スミス氏は教授法に王道はないと断言し、特定の教授法に縛られることなくそれぞれの状況に適したやり方での教育が好ましいと論ずる。次いで評価とテストにも触れ、コミュニケーションのスタイルはそれぞれの国や地域の慣習や文化の相違により一律ではない、故に特定の評価基準を設定するのではなく、それぞれの地域性を考慮した評価をすべきであると主張する。例えば、TOEFL はアメリカへの留学を想定した特定目的のテストであるのでアジア英語の評価には適さないテストであると指摘する。これらの発言は、すべての英語変種を等価的に見る氏の基本的な視点からのもので説得力に富むものと言える。

スミス氏は、最後に、「母語話者（Native Speaker）」と「標準英語」について大変興味深い言及を行った。氏は、アメリカ人は（当人の出身地の）アメリカ英語の母語話者であると同様に、イギリス人はイギリス英語の、インド人はインド英語の、中国人は中国英語の、そして日本人は日本英語の母語話者であると定義する。すべての英語変種とその話者の相対化である。「標準英語」については、特定の英語変種を世界基準にするのではなく、それぞれの多様な英語変種を等価に見るべきであると主張する。ただし、どんな破格の英語でもいいというわけではなく必要最低限の規範は必要であるとする。それぞれの国や地域での educated form としての英語変種が標準となりうるとの見解を示した。アジア英語の研究だけでなくアジア英語の教育も視野に入れている者にとっては示唆に富む指摘である。

今回のスミス氏の講演は、アジア英語における現在の状況と今後の取組みに関して網羅的に概観し、項目ごとに彼の言う「New Dimensions」を提示した。国際英語論の一翼を担うスミス氏の主義主張が遺憾なく発揮された講演内容で、大変意義深いものであった。

## インド映画と字幕の話

榎木 蘭鉄也 (秋田県立大学)

私はムンバイで制作される Bollywood のヒンディー語のインド映画を収集しています。インド映画がインド以外の国で上映・放映・販売されるときは、セリフの吹き替えはほとんどなく、字幕が付けられるのが普通です。以下では、アジア各国でのインド映画の字幕事情を紹介します。

パキスタンの場合、インドとの国境付近では、インドのラジオやテレビを受信できるので（逆にインド側でもパキスタンのテレビを受信できます）、パキスタン人はテレビでインドのドラマや映画を見えています。パキスタンの国語であるウルドゥー語が、会話レベルではヒンディー語とほぼ同じなので、パキスタン人は字幕無しで見えています。また、パキスタンではインド映画の「無難な」作品が上映されていますが、これらにも字幕はありません。

シンガポールとマレーシアにはインド系住民が多く、その他、在外インド人も多く居住しているため、インド映画の需要が高いのです。シンガポールで入手できるインド映画の VCD は、ほとんどの英語の字幕かマレー語の字幕が入っています（中国語字幕は見たことがありません）。シンガポールでライセンスを取っているとパッケージに書いてありますが、字幕付けはマレーシアでおこなわれていると推測します。マレー人や華人にインドの言語ができる人が少ないことから、英語とマレー語の字幕はインド系の人たちが付けていると思われる。ちなみに、英語の字幕付きの VCD はマレー語のそれよりも少し高価です。蛇足ですが、シンガポール航空には、インド便以外でもインド映画の機内上映を楽しめる便があり、たいいてい英語字幕が付いています。

マレーシアでは事情が少し異なります。英語字幕付きのインド映画を見つけることが非常に難しいのです。テレビのマレー語チャンネルでもマレー語字幕を付けたインド映画を放映しています。マレーシアの雑誌によると、インド映画はインド人だけでなくマレー人にも人気があるそうです。実際、マレーシアの散髪屋にはインド映画のスターの写真が張ってありますので、マレー人の若者もインド人スターの髪型を真似るのでしょう。英語字幕付きの日本映画も販売されているので、英語字幕の需要もあるはずですが、インド映画はほぼマレー語字幕のみです。察するに、マレーシアのインド映画のマレー語字幕はおもにマレー人を対象にしているのでしょう。なお、マレーシアは海賊版天国で、正規版の 3 分 1 程度の値段で堂々と販売されています。

ブルネイでもインド映画は販売されていますが、マレー語字幕が英語字幕よりも多めでした。英語字幕のはシンガポールからの輸入品のようで、価格は

シンガポールよりも少し高めでした。

アラブ諸国輸出用のインド映画にはアラビア語字幕が付いています。アラブ諸国にもインド人が多いのですが、アラブの人たちにもインド映画の人気が高いため、アラビア語字幕を付けて輸出しているでしょう。

本国インドでは、さすがに、インド映画には字幕は付いていません。ただし、DVD には英語字幕を出せるものもあります。不思議なことに、インドでは字幕と言えば英語字幕と決まっています。私は今までインドの言語での字幕を見たことがありません。タミル映画を北インドで上映するときはヒンディー語に吹き替えするのですが、ヒンディー語映画は南インドで上映されるときも南インドの言語に吹き替えられることはめったにありません。

基本的に、インド映画の字幕は映画が上映・販売されている国の人を対象としているようです。日本でインド映画の上映・放映をするとき、吹き替えではなく、日本語字幕が付けられることと同じです。

<b>新 刊 書 評</b>
<b>『世界の英語を歩く』集英社新書 0217</b>
<b>本 名 信 行 著 ( 集 英 社 )</b>
<b>ISBN: 4-08-720217-8 価格 700 円(税別)</b>

加藤三保子 (豊橋技術科学大学)

本学会の本名信行会長がまたまたおもしろい本を出版された。『世界の英語を歩く』には英語に関する興味深い話題が満載。まずは「世界諸英語 (World Englishes)」という考え方をわかりやすく解説した後、第 2 章ではインド、マレーシア、シンガポール、フィリピンなど、アジア各国で使用される英語の特徴が「ノンネイティブの英語事情」として説明されている。

アジアの英語事情については、本名氏既刊の『アジアをつなぐ英語』(アルク新書、1999 年)でも扱われていたが、今回はブルネイやヨーロッパ、アフリカの事情にも触れて、「ノンネイティブ」の範囲が一段と広がった。また、第 3 章では「ネイティブの英語事情」としてアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドにおける最新の情報が盛り込まれ、まさに世界に目を向けて地球語としての英語の特徴と役割が語られているのが大きな特徴である。

第 4 章の「文化の多様性と英語コミュニケーション」では、語用論やノンバーバル・コミュニケーション、異文化間リテラシーの話題にも触れ、本書を読み進むうちに読者は自然にことばと文化の多様性の学習へと導かれていく。時々使用される専門用語もたいへん分かりやすく説明されているので、言語

学や英語教育の専門的知識がなくてもじゅうぶんに楽しく読める。

第 5 章では日本人と英語がテーマになり、わたしたちが英語の意義をどのように認識し、どのように英語と向かい合えばよいのかが示されている。

この本を一読すれば、世界規模で現在の英語事情を知ることができ、国際交流の共通言語として、わたしたち日本人が英語とどのようにおつき合いをすればよいのかが見えてくる。大学の講義で使うテキストとしても最適であるが、仕事や趣味で英語と接している一般のひとびとにもぜひおすすしたい一冊である。「英語の使用者は自分の意思で表現を選択すべきなのです」という著者のことばが追い風となって、読者はそれまでの固定観念から解放され、英語をずっと身近なことばに感じるであろう。

## モンゴル旅行記

### 9月10日(水)「現地空港タクシーに ぼられる、ホテルに予約 FAX 届かず」

三好重仁(東京電機大学)

朝 8 時前に自宅出発、日暮里より京成線特急にて成田第 2 空港に 11:10 頃到着。

HIS Ciao カウンターにて航空券受け取り、出国手続きを済ませます。

MIAT-Mongolian Airlines OM502 便 13:30 出発予定のところ、機材整備で出発が約 2 時間遅れて 15:30 頃離陸、定刻より約 80 分遅れの 20:20 に UB (ウランバートル) ボヤント・オハー国際空港へ着陸。空港内の銀行は業務停止のため、米ドルからモンゴル通貨トグリク(Tg)への両替できず。

UB 空港到着時の印象: 何でこんな寂しいところまでできてしまったのだろう。

行きの機内で隣り合わせた日本人から「黄色のタクシーなら OK」と聞いたので、到着ロビーから外に出て黄色のタクシーを捜す。あるタクシーの運転手に声をかけ、宿泊予定の市内のオルゴホテルの地図を示す。よしということで、そのタクシーに手荷物を入れたところ、他のタクシー運転手がやってきて、こっちに来いという。どうなっているのかわからないが、付いて行くと、確かに車体は黄色で料金メーターもついているが、車体が新しすぎるのが気になる。ともかく車は出発し、市内のスフバートル広場西のオルゴホテルへ到着する。タクシーの料金メーターは 8200Tg だが、現地通貨を持っていないので、米ドルでいくらかと尋ねると US\$15 と言う。

『歩き方』には、2002 年 12 月現在 US\$1=1120Tg とあるので、どう考えても US\$15 は納得できないので、US\$7 でどうかと提案するが、運転手は引き下がらない。結局 US\$1 追加して US\$8 払う。『歩き方』p.171 では、タクシーに関して「ときどきメーターが改造

してある(異様に速く上がる)ものがある」とあったが、結局ぼりタクシーに乗ってしまった。帰国日に市内のホテルから空港まで乗車したタクシー料金は 4000Tg だったので、行きは通常の 2 倍以上支払ったことになる。

次に、オルゴホテルのフロントでチェックインしようとして、東京から送信した FAX 用紙を提示するが、ホテルの FAX 受信機はこの 1 週間作動してなくて、受け取っていないと言う。1泊 US\$25 のシングルルームは空室が無く、US\$40 のツインルームのみだと言う。まず、部屋を点検する。造りは古いが問題は無い。ただ、リビングルーム付き 2 ベッドは一人で宿泊するにはもったいないので、しばらく思案する。夜も 9 時半過ぎになり、現地第 1 日目なので、これから宿探しをするのは困難とあらかじめ US\$40 支払いチェックインする。手荷物をほどき、洗顔してから、夜 10 時半過ぎに、平和(エンフタイバン)大通りを、GPO(中央郵便局)からセンターポイントまで往復歩いてみる。(旅は続く。。。)

## JAF AE STUDY TOUR in Taiwan

相川真佐夫(和歌山信愛女子短期大学)

JAF AE の 2003 年度のスタディツアーは台湾(台北市)に決まり、現在計画が進行中です。

日時: 2004 年 3 月 23 日(火) ~ 27 日(土)

予算: 14 万円前後

### 研修内容

小学校英語教育: 授業観察、英語教員とのディスカッション、給食

国立台湾師範大学訪問:

講義: Dr. 張武昌(英語系主任)「台湾の英語教員養成制度について」

授業観察・キャンパスツアー・懇親会

特別講義: Dr. 廖成浩(台湾市文化局長・国立台湾大学外文系教授)「台湾の英語第 2 公用語論(予定)」

Dr. 陳淑嬌(国立嘉義大学教授)「The Spread of English in Taiwan」

その他: 台湾観光、グルメ料理、文化的体験など

既に 1 月にご案内が皆様方のお手元に送付され、募集は終了いたしました。もし、申し込まれていない方で、興味がある方がおられましたら、担当理事の相川までご一報ください。

連絡先: 相川真佐夫(Aikawa, Masao)

aikawa@nnc.or.jp

## 新入会員による大会の感想

岡戸浩子 (中京女子大学短期大学部)

新入会員の岡戸浩子と申します。昨年、12月6日に中京大学にて開催されました第14回全国大会の会場で入会の手続きをさせて頂き、そのまま懇親会にも参加させていただきました。とても活気のある学会であることを初日から感じる事ができ、これから、いろいろなことを学ばせていただきたいと思っております。専門分野は社会言語学で、日本における外国語教育の多様化とニュージーランドの言語政策について研究しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE\*JAF AE

岡本誠 (駒沢大学短期大学部)

以前から人々の動きに伴う言語接触に関心があり、パプア・ニューギニアのピジンを一つの例として調べています。ピジンはリンガ・フランカとして生成されていった過程が言語一般の標本のように考えられ、その点で興味深く思われるわけです。一方、1999年から2001年まではレディング大学・言語科学部の社会言語学の研究会会員となり、レディングの地元の小学校児童たちの ungrammatical な発話を4校200名にわたって調べてみましたが、これも一種の人の動きである urbanization によるものだと思われました。

## 日本学術会議に関するご報告

竹下裕子 (東洋英和女学院大学)

第19期日本学術会議会長ならびに副会長が選出されましたのでお知らせいたします。

会長：黒川清

副会長(人文)：戒能通厚

副会長(自然)：岸輝雄

なお、選出に際し、当学会からは、日本学術会議担当理事の竹下が推薦人として携わりましたので、加えてご報告させていただきます。

## 編集委員会から

### モノグラフ出版助成について

吉川寛 (中京大学)

2003年12月5日(金)に開かれた JAF AE 理事会で、モノグラフ発行の財政的助成についての検討が行われ、助成案の提出を決議しました。翌日の総会での承認を得て、下記のような出版助成が決定されました。

「会員のモノグラフ出版に対する財政的助成として、1件につき10万円を上限として学会が印刷製本費を

負担する。助成件数は年間2件とする。」

これまでは執筆者が印刷製本費を負担しておりましたが、今回の助成措置によりモノグラフ刊行が活発になることを期待しております。助成をご希望の方は事務局までお申し出下さい。

## メーリングリストにおけるウイルスメールへの対処について

徳地慎二 (宮崎産業経営大学)

ML担当理事の徳地慎二です。最近、アジア英語学会が運営する ML でウイルスメールが数回送られてきています。MLの「JAF AE:327」と「JAF AE:328」にも含まれていたようです。この種類のメールは、マイクロソフトを騙り、ウイルス付きのメールを送りつけてくるもので、数ヶ月前からネット上で話題になっていたものです。対処法は下記の通りです。

マイクロソフトからこのようなメールが来ることはありません(マイクロソフトは各自が Windows update などの方法でウイルス対策をとることを勧めています)。よって、このような添付付きのメールがきたら絶対に開封しないことです。開封しないためには各自のメーラー(MS Outlook など)の設定で「プレビューウインドウ」をオフにしておくことをおすすめします。「プレビューウインドウ」をオンにしておくとも内容を開封してしまうことになるからです。

各自のパソコンにワクチンソフトを常駐させておくこと。最近では、フリーで高性能のソフトもあり、ネット上で簡単に入手できます。私が学生に推奨しているソフトに Stinger は、以下のアドレスで入手可能です。

<http://www.nai.com/japan/security/stinger.asp>

このソフトは、早いときには1~2週間で更新されますので、できるだけ頻りにチェックして、更新されていればその都度ダウンロードすることをお勧めします。

とにかく、妙な添付ファイル付きのメールが来たときは、すぐに削除してください。今のところ、このようなメールを ML で排除する特別な方法はありません。会員各自が、自分のパソコンが絶えずウイルスの脅威にさらされていることに関して意識を持っていただくしか方法はありません。その他、インターネットに接続した状態であれば以下のサイトで自分のパソコンがウイルスに感染していないかどうかチェックすることもできますので、ご利用ください。

ウイルスバスターオンラインスキャン

<http://www.trendmicro.co.jp/hcall/index.asp>

## 事務局からのお知らせ

### 会費未納者の扱いについて

2年間会費未納の場合は勧告、3年未納の場合は督促し、それでも連絡がない場合は、書類を送付しないことにいたしました。どうぞ、皆様、会費の滞納がないようお願いいたします。

### 次大会について

第15回全国大会は、7月3日(土)に東京都調布市の電気通信大学で開催いたします。大会実行委員長は同大学のJie Shi氏です。研究発表を希望される方は別項をご参照ください。

### 海外研修について

今年の海外研修旅行は、3月23日(火)から3月27日(土)まで台湾に行くことになりました。詳しくは、先日理事選挙関係の書類といっしょにお送りしました説明書をご覧ください。

## 第15回全国大会研究発表者募集

第15回全国大会(2004年7月3日(土)、電気通信大学)で研究発表を希望される方(会員に限ります)は、要旨(日・英どちらか)をA4用紙1枚程度にまとめて、5月6日(木)必着で、電子メール、FAXまたは郵送にて、事務局(奥付参照)までお送り下さい。

## CALL FOR PAPERS for the 15th National Conference on July 3, 2004 at the University of Electro- Communications in Tokyo

The Conference Committee invites submission of abstracts for papers. Submission is by e-mail, fax or mail. Abstracts for papers should be no more than 250 words in length. The deadline is Thursday, May 6, 2004. Please send it to the JAF AE Secretariat (address below).

## 国際会議情報

### The 10th International TESOL Arabia Conference

Theme: Standards in English Language Teaching and Assessment  
Date: March 10-12  
Dubai, United Arab Emirates  
E-mail: tesolarabia@ibc-gulf.com  
Website: <http://www.tesolarabia.org/conference/index.php>.

### The 39th RELC International Seminar

Theme: Innovative Approaches to Reading and Writing Instruction  
Date: April 19-21

Venue: SEAMEO Regional Language Centre  
30 Orange Grove Road, Singapore 258352  
<http://www.relc.org.sg/seminars.htm>  
Tel: (65) 6885 7830 / 6885 7813  
Fax: (65) 6734 2753  
E-mail: admn@relc.org.sg

### International Conference on English Language Teaching Instruction and Assessment

Date: April 24-25  
Venue: National Chung Cheng University, Chiayi, Taiwan  
Contact: Ada Tang  
Fax: 886-5-2720495  
E-mail: admada@ccu.edu.tw  
Website: <http://www.ccunix.ccu.edu.tw/~fllcccu/>

### International Conference on Tertiary/College English Teaching: From Theory to Classroom Practice

Date: May 14-15 (Nanjing, China), May 17-18 (Hong Kong, China)  
Venue: English Language Teaching Unit, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong  
E-mail: eltu-conference@cuhk.edu.hk  
Website: <http://www.cuhk.edu.hk/eltu/conference/2004/>

### Pan-Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL) The 9th PAAL Conference

Date: August 20-22  
Venue: Namseoul University, Seoul, Korea  
Proposal Deadline: May-31-2004  
E-mail: paalkorea@yahoo.com  
Website: <http://www.paal.or.kr>

#### < 編集後記 >

インドの映画制作本数は世界一で、インド映画はアジアの国を中心にとでも人気があります。インドのヒット曲はほとんど映画の挿入歌です。ちなみに、ヒンディー語映画の挿入歌はヒンディー語と言うよりもむしろウルドゥー語です。これは、ヒンディー語映画の挿入歌の歌詞がウルドゥーガザル(ウルドゥー語でのイスラム定型詩)の形式に基づいて作詞されることが多いためです。ニューズレターへの投稿を歓迎いたします。エッセイ、情報、書評などを事務局までどしどしお寄せ下さい。

2004年1月31日発行

編集・発行 日本「アジア英語」学会

代表者 本名信行

編集長 榎木園鉄也

発行(有)タナカ企画

事務局 〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25  
白百合女子大学 田嶋宏子研究室内

FAX: 03-3326-4550 E-mail: [tina2@gol.com](mailto:tina2@gol.com)

学会ホームページ:

<http://www1.linkclub.or.jp/~jafae>

年会費振込先: 郵便振替 00280-8-3239

<< JAF AE Secretariat >>

#### Professor Hiroko Tina Tajima

Department of English, Shirayuri College  
1-25 Midorigaoka, Chofu-shi, Tokyo 182-8525 JAPAN  
FAX: 03-3326-4550 E-mail: [tina2@gol.com](mailto:tina2@gol.com)  
JAF AE's homepage: <http://www1.linkclub.or.jp/~jafae>  
JAF AE's postal transfer account number:

0 0 2 8 0 - 8 - 3 2 3 9